




2026年3月期 決算説明資料

2026年5月25日

証券コード:3741

 **株式会社セック**
SEC Systems Engineering Consultants Co.,LTD.

目次

- 事業分野
- 2026年3月期 決算概要
- 2027年3月期 今期業績見通し
- 2027年3月期 重点テーマ

事業分野 (BF)

会社理念「社会の安全と発展のために」

社会の安全と発展にかけがえのない一流のソフトウェア会社となる

- 1970年の創業以来、コンピュータシステムの普遍的な設計技術である「リアルタイム技術」を中核として成長
- 「リアルタイム技術」が必要とされ、「社会の安全と発展」に貢献する分野が、当社の事業分野
- 社会基盤システムと宇宙先端システムの2つの創業来の事業分野に、時代の変化とともに、新しい事業分野を開拓



事業分野 | 社会基盤システム

世の中をもっと便利に、安全にするソフトウェアを開発

高度交通システム、防衛関連システム、医療関連システム、
環境エネルギー関連システム、位置情報管理システム、官公庁向けシステムなどを開発。



高度交通システム
ETC/VICS(渋滞情報)



位置情報サービス
ロードサービス・緊急通報



緊急医療支援システム



医薬品・医療機器
安全対策支援システム



防衛関連システム



ヘルスケア関連システム



官公庁向けシステム
家畜個体把握・各種統計・防災関連

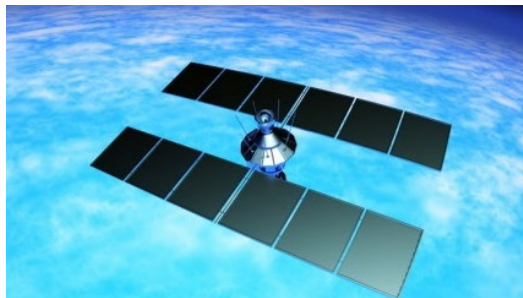


環境エネルギー
マネジメントシステム

事業分野 | 宇宙先端システム

人類の夢を叶えるソフトウェアの開発に挑戦

科学衛星や惑星探査機の搭載システム、観測データ解析システムなどの開発や、次世代ロボットに関する研究開発、サービスロボットシステムの開発を行う。



衛星搭載システム

ひので、はやぶさ2など



スペースデブリ除去衛星

フライト制御ソフト開発



国際宇宙ステーション

「きぼう」日本実験棟実験装置



天体望遠鏡制御システム

すばる望遠鏡など



ロボット標準化技術

RTミドルウェア、ROS



車両自動走行



自動制御ソフトウェア

船舶、ドローン、トラクター



研究機関向けシステム

NICT、JAXA、大学など

事業分野 | モバイルネットワーク・インターネット

次世代のエッジデバイスと IoT のソフトウェア

キャッシュレス決済端末や車載端末などモバイルデバイスを使ったサービスシステム、IoT関連システム、スマートコンストラクション、XR(クロスリアリティ)など次世代技術を使ったエッジデバイスのソフトウェアを開発。



モバイルデバイス搭載機能



非接触IC搭載ソフトウェア



キャッシュレス
モバイル決済端末



車載インフォテインメント
ソフトウェア



スマートコンストラクション



IoT
暑熱作業リスク管理システム



IoT
海中資源管理



XR技術関連開発

持続可能な社会の実現のために



私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

当社は、ソフトウェア開発の事業活動を通して社会課題の解決に取り組むことで、社会の持続的発展に貢献することをサステナビリティ推進の考え方としている。

社会課題を起点とした事業機会創出にも取り組むことで、より一層 SDGs の達成に貢献していく。



環境



JQA-EM1216

2000年12月に環境マネジメントシステム(ISO 14001)の認証を取得。以来、「地球資源が有限であることを認識し、環境の保全に永続的に配慮する」ことを会社方針とし、企業活動と地球環境の調和を目指して、全社員が環境問題に積極的に取り組んでいる。



社会

研究開発

私たちの生活を安全、安心、快適にし、環境負荷をも軽減する「ユビキタス」をテーマに取り組んでいる。

人材育成

プロに相応しい挑戦の機会と魅力ある待遇を提供。

ソフトウェア教育・リスキリング支援

学校や企業、自治体に教育プログラムを提供。

健康経営

健康経営優良法人の認定取得。



ガバナンス

コーポレートガバナンス

審議に十分な時間をかけた取締役会を開催することと、監査等委員会監査と内部監査による経営チェック機能の充実を重視している。透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定を行う仕組みを構築・維持・改善し、持続的な成長と企業価値の向上に取り組んでいる。

コンプライアンス

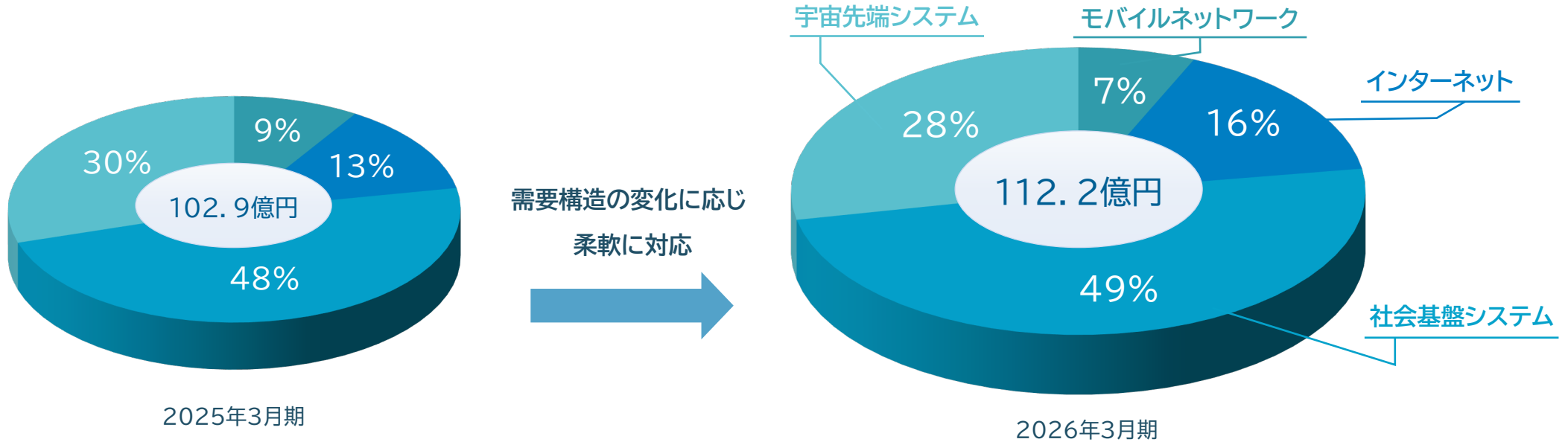
「法および社会規範を遵守」することを会社理念の行動規準に定め、社員と共有している。

2026年3月期

決算概要

事業環境

IT需要は全体的には概ね堅調



モバイルネットワークBF

減少傾向が継続

インターネットBF

非接触IC関連の開発が増加したことに加え、民間企業向けのDX関連の開発も増加

社会基盤システムBF

医療分野や環境分野の開発、司法分野をはじめとした官公庁向けの開発が大幅に増加

宇宙先端システムBF

車両自動走行の研究開発案件が堅調であることに加え、宇宙天文分野の開発が増加したものの、全体構成比では減少

2026年3月期総括

売上高、営業利益、経常利益の全てで過去最高
前期比で9期連続の増収増益

	当期（百万円）	前期比	利益率
売上高	11,220	109.0%	
営業利益	1,879	104.8%	16.8%
経常利益	2,062	108.9%	18.4%
当期純利益	1,509	112.3%	

受注高、受注残高ともに過去最高
受注高は前期比で11期連続の増加

	当期（百万円）	前期比
受注高	14,023	130.0%
受注残高	9,065	144.8%

先端技術を窮め、オープン・イノベーションで事業成長を目指す

非接触IC関連の開発や、医療分野、官公庁向け
の開発が増加するなど、需要構造の変化に全
BF最適化の視点で対応した。

売上高、営業利益、経常利益の全てで過去最高
となり、前期比で9期連続の増収増益となった。

受注高は過去最高となり、前期比で11期連続
の増加、受注残高も過去最高となった。

損益計算書

	2025年3月期 (百万円)	2026年3月期 (百万円)	前期比 (%)	期初予想 (百万円)	計画達成率 (%)
売上高	10,295	11,220	109.0	10,700	104.9
売上原価	7,224	7,893	109.3	7,470	105.7
売上総利益	3,070	3,326	108.3	3,230	103.0
販売管理費	1,277	1,446	113.3	1,390	104.1
営業利益 (営業利益率)	1,793 (17.4%)	1,879 (16.8%)	104.8	1,840 (17.2%)	102.2
経常利益 (経常利益率)	1,893 (18.4%)	2,062 (18.4%)	108.9	2,010 (18.8%)	102.6
当期純利益	1,344	1,509	112.3	1,395	108.2

売上原価 外注費(4,115百万円、前期比9.2%増/売上高外注比率36.7%、前期比0.1%増)、仕入高(607百万円、前期比77.5%増)が大幅に増加、定期昇給・ベースアップにより人件費が増加

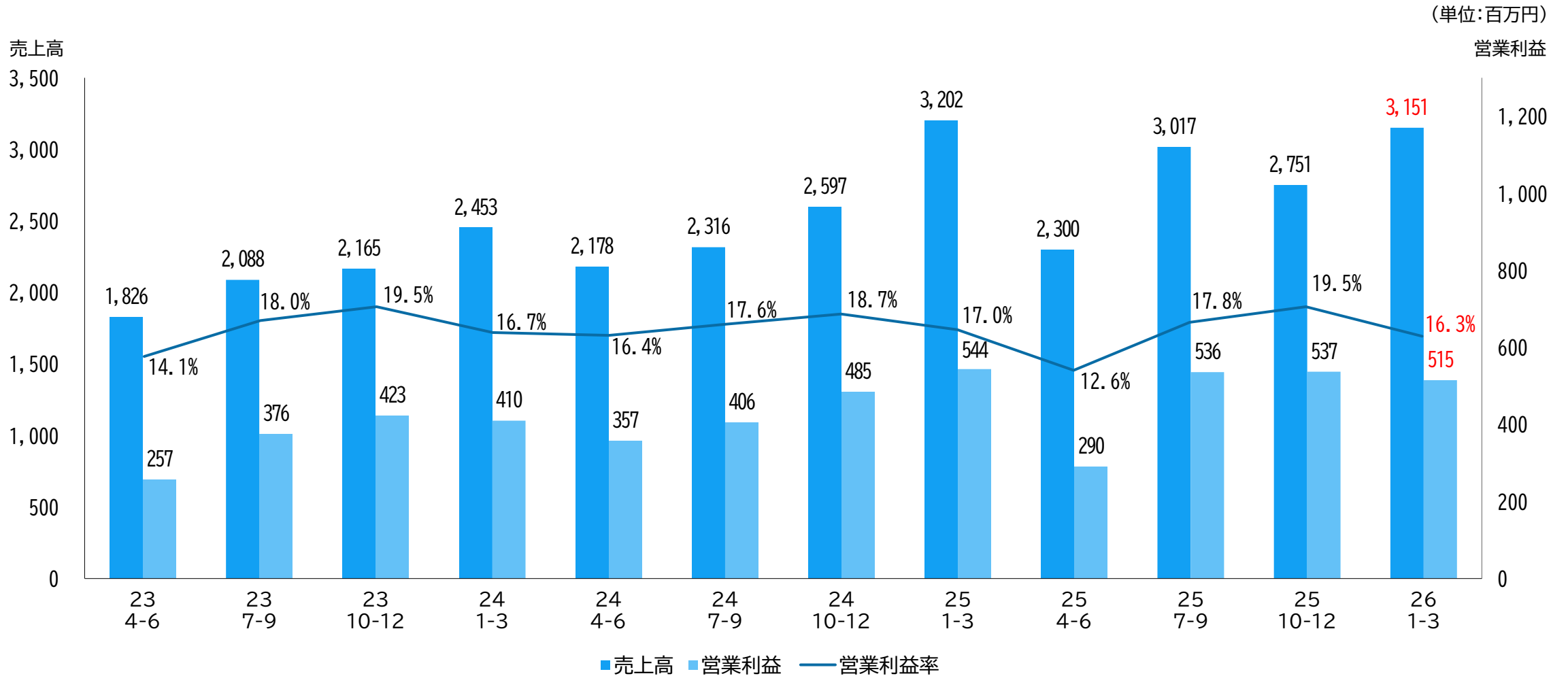
販売管理費 新入社員の増加、定期昇給・ベースアップにより労務費が増加、研究開発費は217百万円で、前期比で43.8%増

営業外損益 研究開発の補助金収入が大幅に増加(109百万円、前期比179.2%増)

当期純利益 賃上げ促進税制の適用による税額控除で法人税等負担率が低下(法定実効税率30.62%に対し、法人税等負担率26.82%)

四半期業績推移(PL)

第1四半期は増収減益、第2、第3四半期は増収増益、第4四半期は減収減益

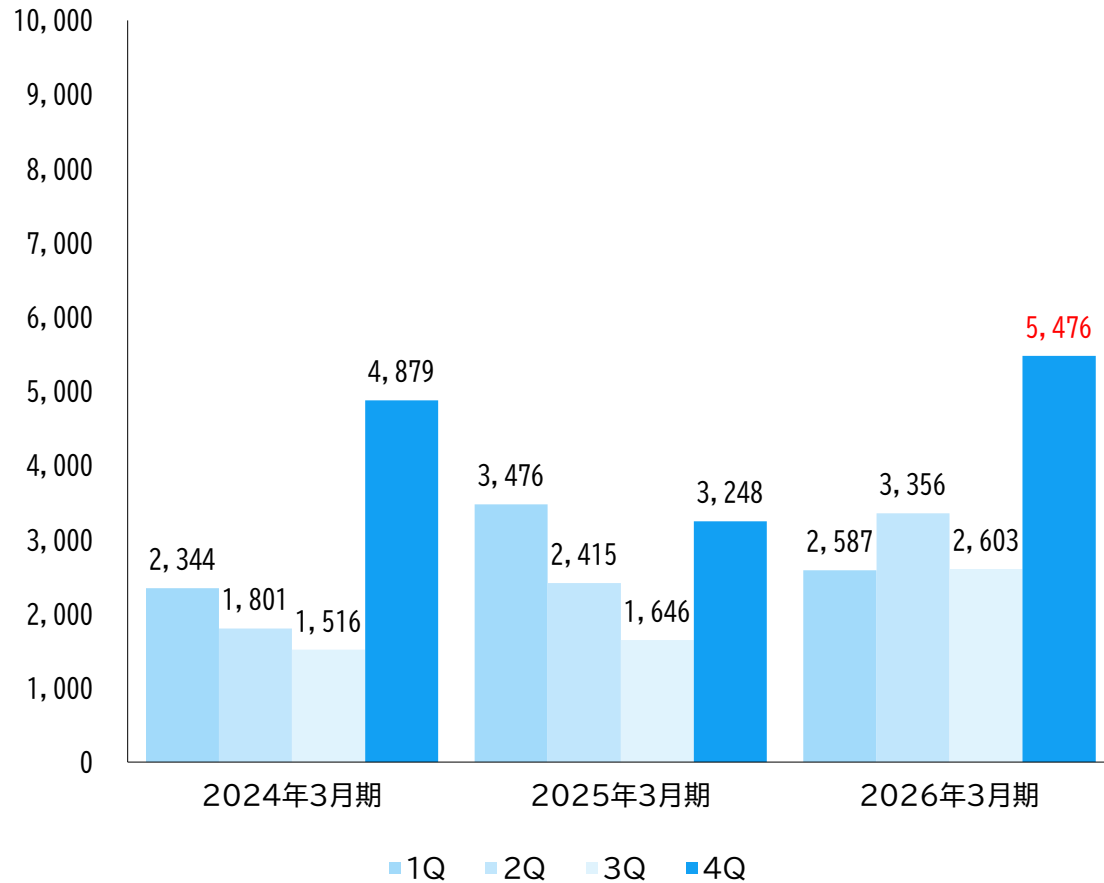


四半期業績推移(受注状況)

受注高は第1四半期を除き過去最高、受注残高は第3、第4四半期で過去最高

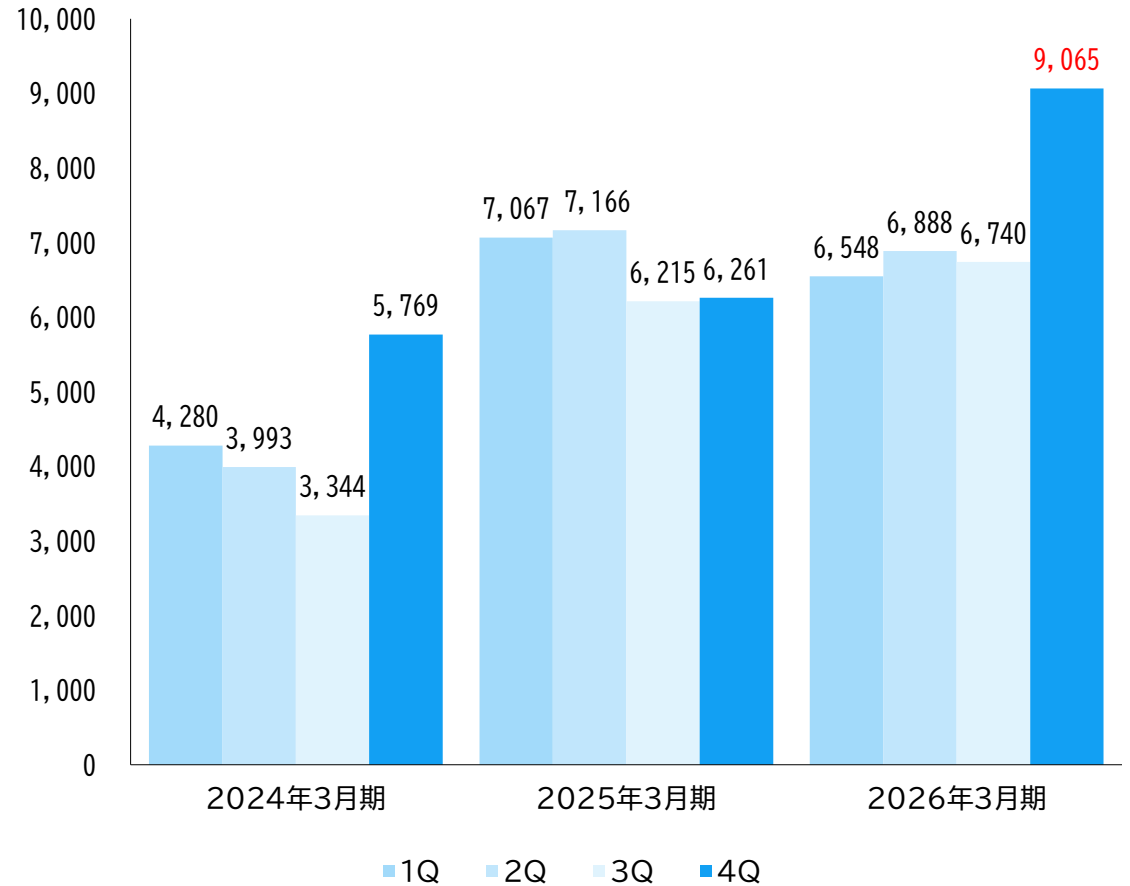
(単位:百万円)

受注高



(単位:百万円)

受注残高



BF別の状況

インターネットBF、社会基盤システムBF、宇宙先端システムBFが増加

ビジネスフィールド	2025年3月期		2026年3月期		前期比 (%)
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	
モバイルネットワーク	922	8.9	740	6.6	80.3
インターネット	1,336	13.0	1,784	15.9	133.5
社会基盤システム	4,972	48.3	5,537	49.3	111.3
宇宙先端システム	3,064	29.8	3,158	28.2	103.1
合計	10,295	100.0	11,220	100.0	109.0

- モバイルネットワークBFは、減少傾向が継続
- インターネットBFは、非接触IC関連の開発が増加したことに加え、民間企業向けのDX関連の開発も増加
- 社会基盤システムBFは、医療分野や環境分野の開発、司法分野をはじめとした官公庁向けの開発が大幅に増加
- 宇宙先端システムBFは、車両自動走行の研究開発案件が堅調であることに加え、宇宙天文分野の開発が増加

BF別受注状況

社会基盤システムBF、宇宙先端システムBFが大幅に増加

ビジネスフィールド	2025年3月期		2026年3月期			
	受注高 (百万円)	受注残高 (百万円)	受注高 (百万円)	前期比 (%)	受注残高 (百万円)	前期比 (%)
モバイルネットワーク	866	178	889	102.7	328	183.9
インターネット	1,442	429	1,809	125.4	454	105.9
社会基盤システム	5,482	4,833	7,950	145.0	7,246	149.9
宇宙先端システム	2,995	819	3,373	112.6	1,034	126.2
合計	10,787	6,261	14,023	130.0	9,065	144.8

※ 受注残高のうち、2027年3月期売上貢献分は6,658百万円(前期比41.5%増)、2028年3月期以降売上貢献分は2,406百万円(前期比54.7%増)

- モバイルネットワークBFは、一部大手通信事業者向けの大規模案件により受注が増加
- インターネットBFは、非接触IC関連や民間企業向けのDX関連の受注が増加
- 社会基盤システムBFは、官公庁向けの受注が増加
- 宇宙先端システムBFは、車両自動走行の研究開発案件や宇宙天文分野の受注が増加

期末貸借対照表

	2025年3月末日(百万円)	2026年3月末日(百万円)	増減(百万円)
流動資産	9,326	9,924	598
固定資産	2,449	2,510	61
流動負債	2,281	1,928	▲353
固定負債	163	193	30
純資産	9,330	10,313	982
総資産	11,775	12,435	659
自己資本比率	79.2%	82.9%	3.7%
流動比率	408.7%	514.7%	106.0%
固定比率	26.3%	24.3%	▲1.9%

流動資産 現金及び預金の増加・商品及び製品の減少などによる増加

固定資産 投資有価証券の減少・前払年金費用の増加・有形固定資産の増加などによる増加

流動負債 買掛金の減少などによる減少

キャッシュ・フロー計算書

	2025年3月期 (百万円)	2026年3月期 (百万円)	増減 (百万円)
営業活動によるキャッシュ・フロー	▲250	1,697	1,948
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲40	▲46	▲5
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲445	▲561	▲115
現金及び同等物の増減額	▲736	1,089	1,826
現金及び同等物期末残高	2,231	3,321	1,089

営業キャッシュ・フロー 税引前利益の増加などによる収入増

財務キャッシュ・フロー 配当金支払額の増加などによる支出増

2027年3月期

今期業績見通し

2027年3月期業績見通し

継続的な成長を目指し、売上高、利益ともに増加の計画

	2026年3月期実績(百万円)	2027年3月期業績予想(百万円)	前期比(%)
売上高	11,220	11,800	105.2
売上原価	7,893	8,160	103.4
売上総利益	3,326	3,640	109.4
販売管理費	1,446	1,660	114.7
営業利益 (営業利益率)	1,879 (16.8%)	1,980 (16.8%)	105.3
経常利益 (経常利益率)	2,062 (18.4%)	2,300 (19.5%)	111.5
当期純利益	1,509	1,575	104.3

売上高 前期と同様の需要環境を見込み、官公庁主体の社会基盤分野のビジネスを中心に推進し、前期比約5%増を見込む

売上原価 社員数増加や、定期昇給に加えベースアップによる人件費の増加、外注費の増加などにより、増加を見込む

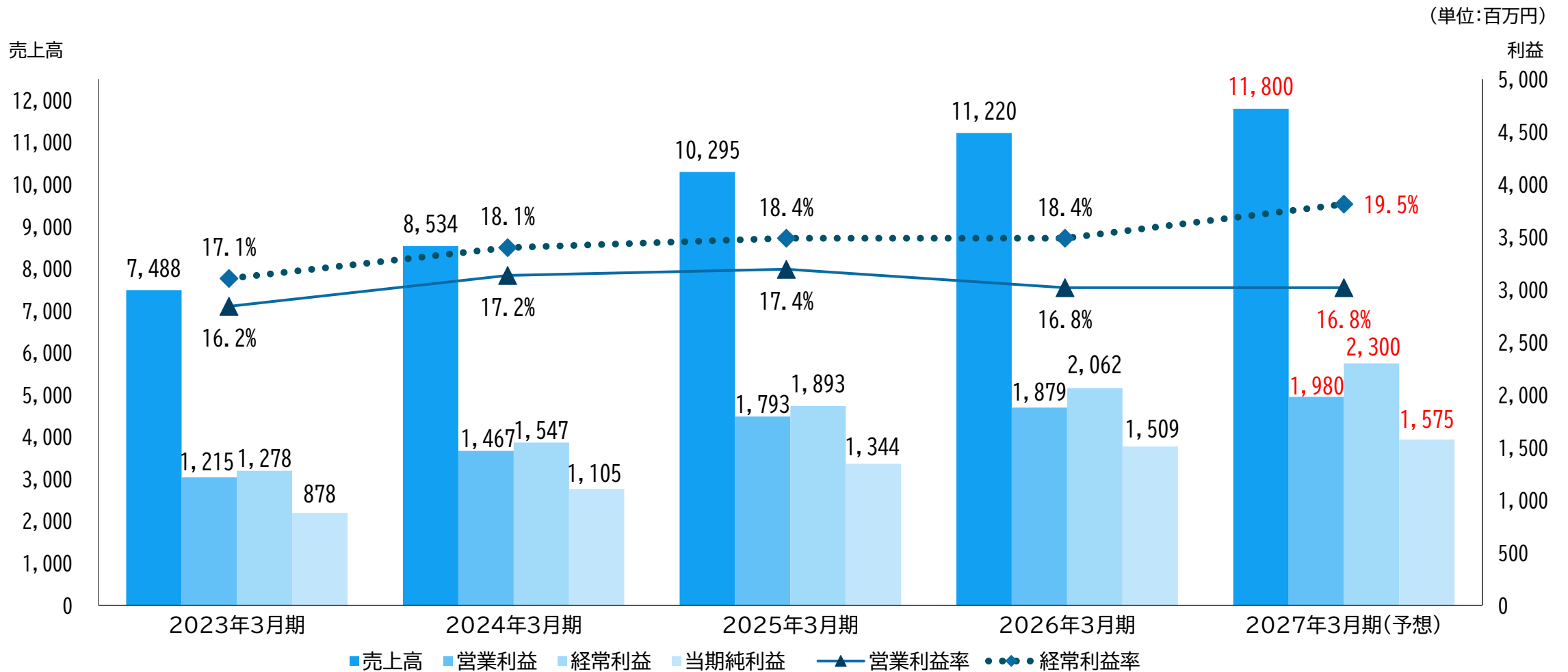
販売管理費 ベースアップなどによる労務費の増加、研究開発の大幅な増加などにより、増加を見込む

営業外損益 研究開発の補助金収入の増加などにより、増加を見込む

当期純利益 前期は賃上げ促進税制の適用により増加したが、今期は税金費用を法定実効税率どおりで計算





通期業績の推移

10期連続の増収増益を目指す



2027年3月期BF別業績見通し

社会基盤システムBF、宇宙先端システムBFが増加する見込み

ビジネスフィールド	期初の想定	予想
モバイルネットワーク	一部大手通信事業者向けの大規模案件の開発があるものの、全体的には減少	
インターネット	民間企業向けのDX関連の開発が増加するものの、他のBFとの人員配分の最適化により、減少	
社会基盤システム	医療分野や環境分野の開発、司法分野をはじめとした官公庁向けの開発が引き続き好調で、増加	
宇宙先端システム	車両自動走行の研究開発案件や宇宙関連の開発が堅調であることに加え、国の研究機関向けの開発が増加し、増加	

2027年3月期

重点テーマ

先端技術を窮め、 オープン・イノベーションで事業成長を目指す

「研究開発」

1. 1社完結の研究開発以外に、大学や国、企業の研究機関、ハードウェアベンダとの最先端技術でのアライアンスを積極的に推進する。
2. 当社コアコンピタンスである、「宇宙分野」「ロボット分野」「エッジAI分野」「量子コンピュータ分野」に関して強化を図る。

「高付加価値化」

1. 最先端のリアルタイム技術に取組み、高単価、高付加価値化を目指す。
2. 研究開発・製品開発活動により得たニューエレメント(革新的技術、標準化技術、ソリューション製品、特許など知的財産権、新ビジネスモデルなど)を核として、主体的なビジネスを推進する。
3. サイバーレジリエントな環境と体制を整備する。

「人的資本投資」

1. AI、デザイン思考、データサイエンス、セキュリティ、クラウドを中心に技術教育を強化する。
2. ハードウェアベンダとの人材交流を進め、ロボットやFPGAなどハードウェアにも強い人材育成を強化する。

当社のAIへの取り組み

SEC Software Development Methodology

当社は、通称SDMというソフトウェアを作る仕組みを標準化している。設計プロセス、開発プロセス、運用プロセス、保守プロセス等を体系的に定義し、すべての作業(アクティビティ・タスク)を標準化した、価値を安定して作り続けるための仕組みである。

SDMの進化

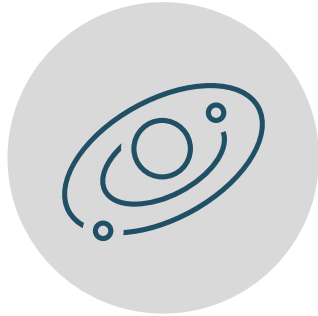
現在当社では、SDMの進化として、SDMそのものを人ではなくAIエージェントが実行する仕組みへと転換し、現場の開発スタイルを根底から変革する取り組みを進めている。

新しい開発・統制モデル

AIが課題を捉え、解決策を設計し、設計情報を生成する。AIがレビューし、実装し、検証し、試験することで品質を担保する。そして、人は最終判断と責任に集中する。
この新しい開発・統制モデルにより、SDMはAI時代の中核基盤へ進化し、セックの競争力を根本から変革させ、セックの価値を次の次元へ引き上げてゆく。

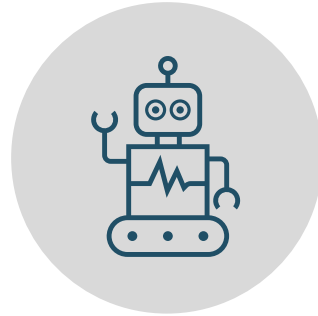
コアコンピタンス

リアルタイム技術の中核とした、最先端分野における高信頼システムの設計・実装力



宇宙

宇宙開発に対して、創意工夫による改善とAIの適用を推進。宇宙のリアルタイムソフトウェア開発への挑戦。



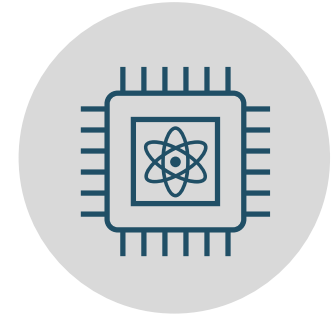
ロボット×宇宙

人が行けない／活動できない宇宙環境で、ロボットを「確実に動かし続ける」挑戦。



エッジAI

現場でリアルタイムに判断と制御を行うエッジAI基盤構築への挑戦。



量子コンピュータ

量子コンピュータを「未来の研究対象」ではなく、「今、使える技術」に変える挑戦。

研究開発：宇宙

月面開発に向けた取組み

水・金属元素探査装置のフライトモデル開発と月面資源量の実測(宇宙戦略基金事業)

JAXAが公募する「宇宙戦略基金事業(第二期)」において、「技術開発テーマ／探査等(月面インフラ構築に資する要素技術)」に国立大学法人東京大学、学校法人立命館(立命館大学)などと共同で応募し、採択された。

- 本プロジェクトでは、月面資源として期待される元素の濃度と鉱物組成を月面その場で計測可能な4つの観測装置の開発を行い、月面での資源探査技術実証と資源データの取得を目指す。
- 当社は、立命館大学を中心とする開発チームの一員として広角分光カメラおよび顕微分光カメラの開発に参画し、システムインテグレーションや制御ソフトウェア開発を担当する。

2026年2月10日 当社ニュースリリース：https://www.sec.co.jp/ja/ir/news/auto_20260206550473/pdfFile.pdf

次世代月面ロジスティクスに資する積載能力強化型物流ローバの研究開発(JAXAの研究提案方式の調達案件)

JAXA宇宙探査イノベーションハブが進める共同研究「Moon to Mars Innovation」の第13回研究提案募集において、慶應義塾大学などと共同で提案・応募し、共同研究先として採択が内定した。

- 本研究では、自身の本体質量を超えるペイロードの積載が可能な「積載能力強化型物流ローバ」の実現を目指す。
- 当社は、「物流ローバにおいて想定される故障予測と診断技術」の開発を担当する。

2026年2月18日 当社ニュースリリース：https://www.sec.co.jp/ja/ir/news/auto_20260218564325/pdfFile.pdf

研究開発：ロボット×宇宙

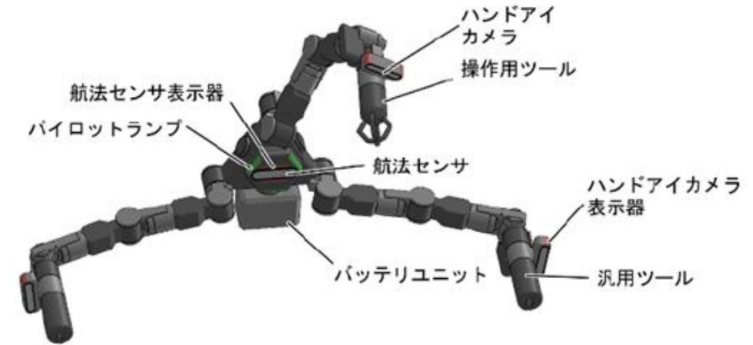
パイロードの管理・運搬・操作ロボットシステム「PORTRS」ISS実証用システムの開発(JAXAの技術提案方式の調達案件)

「PORTRS」は、国際宇宙ステーション(ISS)「きぼう」日本実験棟で動作する多肢ロボットを地上から遠隔操作することにより、実験サンプルなどの物品の搬送・操作や、船内の状態の確認・監視を自動化するためのシステムである。ISS船内の作業効率化や宇宙飛行士の作業軽減を目的とし、2024年3月にスタートした。

代表者 : 株式会社セック
共同提案者: 株式会社浜野製作所/株式会社ウェルリサーチ/コニカミノルタ株式会社

2024年3月11日 当社ニュースリリース :

<https://www.sec.co.jp/ja/ir/news/news71932186239469261.html>



RFP※提案時の多肢ロボット外観イメージ

※JAXAの企画競争入札の技術提案方式(Request for Proposal方式)

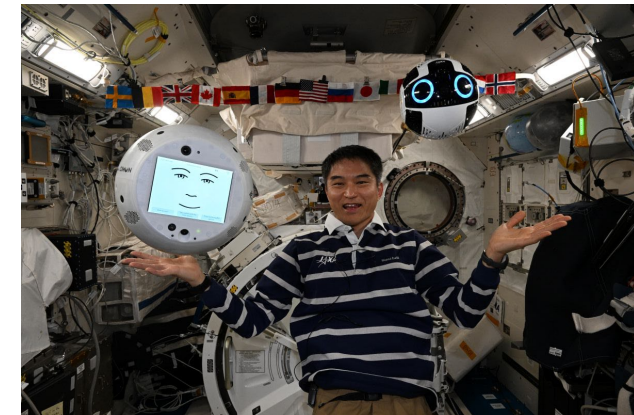
ISS上の宇宙ロボット協働実証実験「ICHIBAN ミッション」に技術協力

2025年7月29日、JAXAが開発したISS船内ドローン「Int-Ball2」と、ドイツ航空宇宙センター(DLR)が開発した宇宙飛行士支援システム「CIMON」の2体の宇宙ロボットがISS上で協働する実証実験「ICHIBAN ミッション」が行われ、成功した。

異なる機関で開発された2体の宇宙ロボットが、ISS内の異なるネットワークをまたいで通信・協働することに成功した画期的な成果で、当社は「Int-Ball2」が「CIMON」との間でリアルタイムに遠隔監視データとコマンドの送受信を行うためのインタフェースを開発した。

2025年7月31日 当社ニュースリリース :

<https://www.sec.co.jp/ja/news/news-310333214302696395.html>



ISS内の「CIMON」(左)、大西宇宙飛行士(中央)、「Int-Ball2」(右上)
画像提供: JAXA/DLR/ESA/NASA

研究開発: エッジAI

フィジカルAIの中核となるエッジAI領域に注力

身体を持ち、実世界において認識・判断・行動を一体的に行うフィジカルAIには、ロボットやヒューマノイドに加え、自動運転車や産業機械など、現場で自律的に稼働するシステムが含まれる。

フィジカルAIの進展には、現場でリアルタイムに知能を動作させる基盤が不可欠である。

当社はエッジAIを、フィジカルAIを構成する中核的な技術の一つと位置づけ、研究開発を進めている。

エッジAIの特長

エッジAIは、IoT端末などのデバイスそのものや、その近くに設置されたサーバにおいて、その場でAIが判断する仕組みである。クラウドにデータを送らないため、リアルタイム性が高く、負荷が分散されることで通信の遅延も起こりにくいという特長を持つ。機密保持、プライバシー保護も徹底され、特に、医療分野、防衛分野、インフラ分野、宇宙分野では重要なテクノロジーとなる。

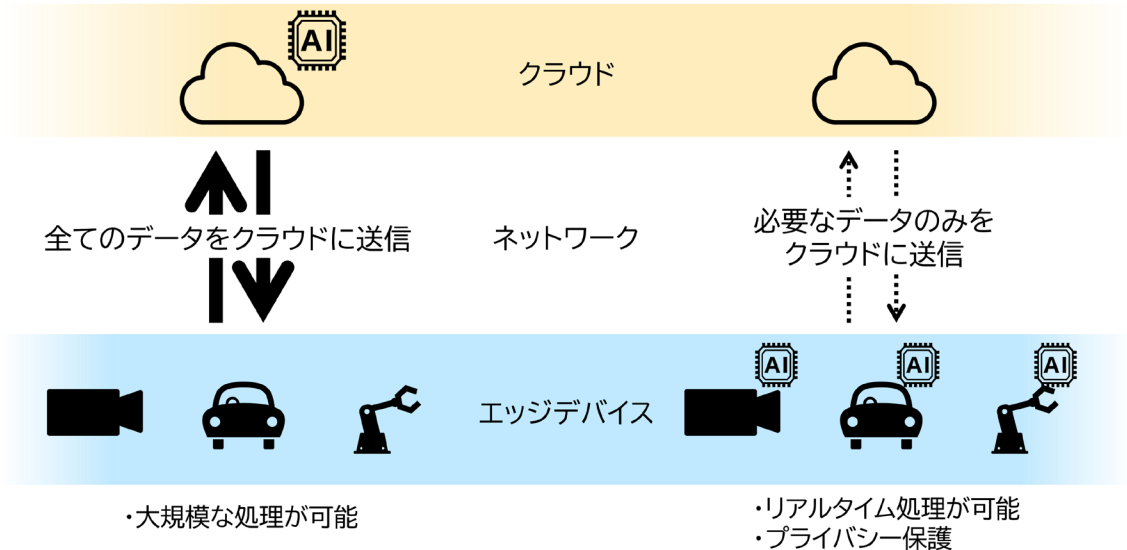
クラウドAI

AIの学習・推論をクラウドで処理



エッジAI

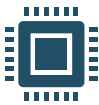
AIの学習・推論をエッジデバイスで処理



研究開発:エッジAI

リアルタイム膀胱内視鏡検査支援システム

「膀胱がんの見落としを防ぐリアルタイム膀胱内視鏡検査支援システムの開発・事業化」に参画



AI を用いて膀胱がんの内視鏡検査を支援

膀胱がんの見落としを防ぎ、高い診断精度の実現を目指す。



筑波大学発スタートアップの株式会社 Vesica Japanとの共同研究

日本医療研究開発機構(AMED)の「橋渡し研究プログラム(大学発医療系スタートアップ支援プログラム)」の筑波大学拠点におけるシーズS2課題として採択。



国内外承認取得のための製品開発プロセスに則った開発

国内の薬事承認制度及び米国食品医薬品局(FDA)承認取得のための製品開発プロセスに則った開発を目指す。「リアルタイム技術」を適用し、高い安全性や信頼性が求められる医療分野の発展に貢献。

2025年8月5日 当社ニュースリリース : https://www.sec.co.jp/ja/ir/news/auto_20250804529577/pdfFile.pdf

研究開発:エッジAI

リアルタイム膀胱内視鏡検査支援システム

CES2026 Japanパビリオンにてデモ展示を実施

世界最大級のテクノロジーイベント「CES2026」(2026年1月6日～9日、米国ラスベガス)のJapanパビリオンにて、当社が開発に参画している「リアルタイム膀胱内視鏡検査支援システム」を、株式会社Vesica Japanなどと共同でデモ展示を実施した。



2025年12月10日 当社ニュースリリース : <https://www.sec.co.jp/ja/news/news-7267560511429074683.html>

研究開発：量子コンピュータ

量子コンピュータは従来のコンピュータを凌駕する計算能力を期待されているが、その実用化には量子コンピュータを利用するための量子ソフトウェアが必要となる。当社は、大阪大学を中心とした共同研究チームの一員として量子ソフトウェアの研究開発を進めており、量子コンピュータの活用方法や、量子コンピュータを利用する上で必要になるクラウド環境に関する研究開発に取り組んでいる。

大阪大学が稼働を開始した「純国産」量子コンピュータの開発に協力

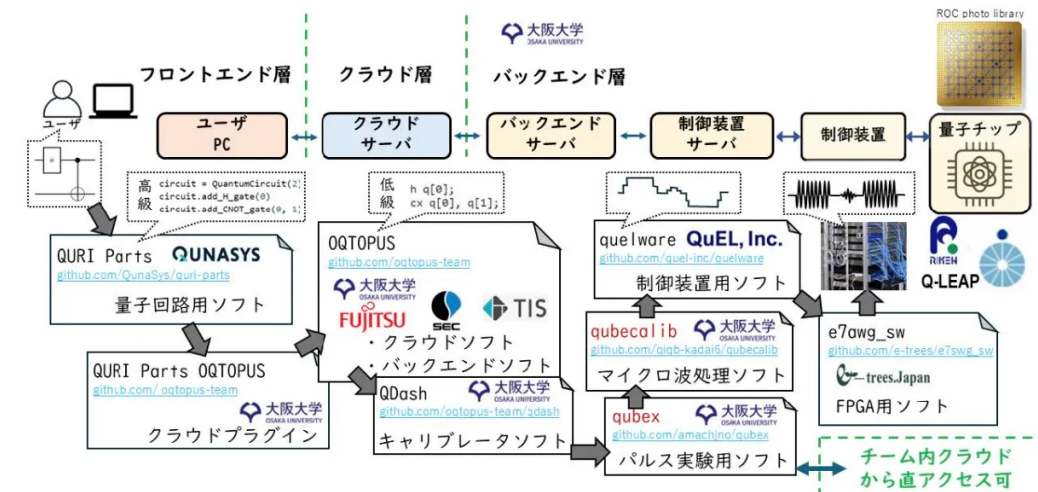
2025年7月28日、大阪大学量子情報・量子生命研究センター(QIQB)にて、主要部品・パーツやソフトウェアが全て日本製となる「純国産」超伝導量子コンピュータが稼働を開始した。

本システムは大阪大学を中心とした共同研究グループにより開発されたもので、当社は量子計算の高速化技術の共同研究や量子クラウドソフト「OQTOPUS」の共同開発等に貢献している。

「OQTOPUS」は量子コンピュータ・クラウドサービスに必要な、環境構築から運用までを網羅する基本ソフトウェアを一括して提供する。開発した量子コンピュータをクラウド公開したい大学や研究機関、企業は「OQTOPUS」を利用することで、簡単にクラウドサービスをユーザーに提供することが可能となる。

2025年7月28日 当社ニュースリリース：
<https://www.sec.co.jp/ja/news/news-4179713406098432955.html>

阪大クラウド量子コンピュータスタック2025



量子コンピュータシステムを構成するソフトウェアのスタック

Copyright © OSAKA UNIVERSITY. All Rights Reserved.

研究開発：量子コンピュータ

「ポスト5G情報通信システム基盤強化研究開発事業／量子コンピュータの産業化のためのミドルウェア開発」（NEDO公募事業）

NEDOが公募する「ポスト5G情報通信システム基盤強化研究開発事業」において、「量子コンピュータの産業化のためのミドルウェア開発」にKDDI株式会社と共同で提案・応募し、採択された。

- 本プロジェクトでは、量子コンピュータの産業利用加速に向けて、以下の 2つの技術開発を行い、「AI・量子共通基盤」の構築を目指す。
 - 計算資源を最適に割り当てるミドルウェア技術
 - 利用者が専門的な知識を持たなくても利用できるプラットフォームの開発
 - ロードバランシング技術の開発
 - アプリケーションサービスプロバイダーの開発
 - AI・量子コンピュータの運用技術
 - テレメトリデータの抽出・蓄積方法の開発
 - 周辺機器のテレメトリデータを基にした障害検知・管理技術の確立
- 当社は量子システムの障害検知技術および運用システムの研究開発を担当し、量子システムの障害検知及び安定稼働を支援する技術の構築に取り組む。

共同提案者 : KDDI 株式会社、株式会社セック

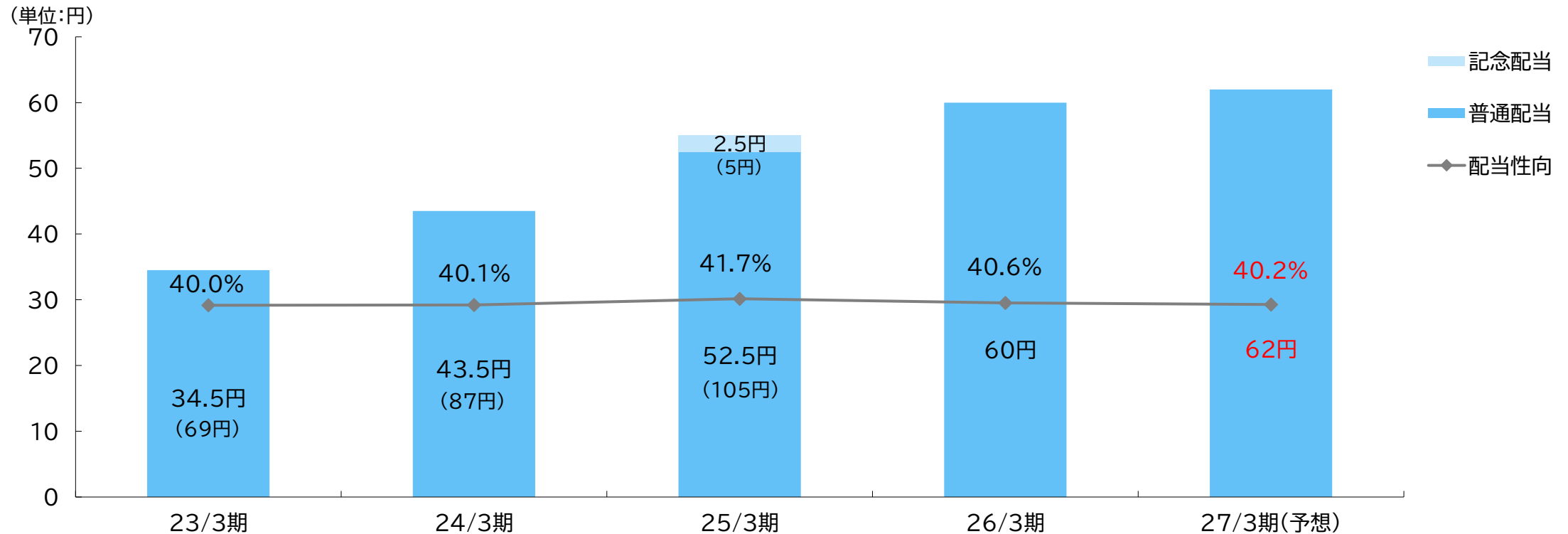
連携・共同研究機関 : 株式会社 KDDI 総合研究所、株式会社 Jij、株式会社 QunaSys、国立研究開発法人 産業技術総合研究所、
学校法人早稲田大学、学校法人慶應義塾、国立大学法人大阪大学、学校法人芝浦工業大学

2025年8月1日 当社ニュースリリース : https://www.sec.co.jp/ja/ir/news/auto_20250731526643/pdfFile.pdf

配当の方針

配当性向40%を目安とし、前期比で每期増配の方針

2027年3月期は、1株当たり62円の配当予想とする。



※2025年10月1日付で、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施しておりますが、2023年3月期の期首に株式分割が行われたと仮定して1株当たり配当金を算出しております。
()は株式分割前の金額。

ご参考: ニュースリリース一覧(2026年1月~5月)

2026年		
1月15日	<u>ロボット開発技術探求プロジェクト「SETAGAYA Eclipse」がロボット競技エンジニア選手権CoRE-1に挑戦</u>	3月 9日 <u>「健康経営優良法人2026(大規模法人部門)」に認定</u>
1月27日	<u>駐車場状況判断サービス「Rtrilo Parking Monitor」が西日本のパーキングエリアに採用</u>	4月 9日 <u>AI・人工知能EXPO 出展</u>
1月31日	<u>ラジオNIKKEI & プロネクサス共催「企業IR & 個人投資家応援イベント」(名古屋)にて企業IRセミナーを開催</u>	4月10日 <u>量子コンピューティングEXPO出展</u>
2月 4日	<u>個人投資家向け会社説明会(Webセミナー)を開催(2026年2月16日開催)</u>	4月14日 <u>Kaggle「第7回全国医療AIコンテスト」にて当社社員参加チームが優勝</u>
2月10日	<u>宇宙戦略基金(第二期)「月面インフラ構築に資する要素技術」に採択</u>	4月21日 <u>「2026年度 世田谷ITカレッジ」開講</u>
2月18日	<u>JAXA宇宙探査イノベーションハブ Moon to Mars Innovation 第13回研究提案募集に共同研究先として採択内定</u>	5月15日 <u>【開催レポート】世田谷区「ハローキャリアワーク」小・中学生向け宇宙ロボットプログラミング講座</u>
3月 6日	<u>技術専門書「リザーブコンピューティング~技術の現在地と最新動向~」に当社社員が技術解説を執筆</u>	
3月 6日	<u>世田谷区「ハローキャリアワーク」小・中学生向け宇宙ロボットプログラミング講座を開催(2026年4月3日・11日開催)</u>	

- この資料の目的は、当社へのご理解を深めていただくためのIR情報をご提供することであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資につきましては、ご自身でご判断願います。
- この資料には、当社の現在の計画、戦略、将来の業績に関する見通しなどが記載されております。こうした記述は、当社の将来の業績を保証するものではなく、経営環境をはじめ、さまざまな外部的要因の影響等により変化しうることをご承知おきください。
- この資料の作成に際しましては、細心の注意を払っておりますが、内容につきましていかなる保証を行うものではなく、この資料を使用したことによって生じたあらゆる損害などについて、当社は一切責任を負うものではありません。